

まちづくり活動ワークショップの開催結果（速報）

1. 開催概要

(1) 開催目的

第3期札幌市まちづくり活動促進基本計画の検討に向けて、団体のまちづくり活動における課題や、必要な取組みや支援・制度について意見交換を行った。

(2) 開催日時及び場所

2018年7月23日（金） 札幌市役所地下1階 1号会議室

【第1部】14時00分～16時00分

【第2部】18時30分～20時30分

(3) 参加者数

【第1部】30団体（30名） 【第2部】24団体（24名）

※札幌市内にのみ事務所をおく特定非営利活動法人、札幌市市民活動サポートセンター利用登録団体、さぼーとほっと基金登録団体（2,000団体に参加案内を送付）

(4) プログラム

1. 開会

2. 挨拶

3. 説明

1) 本日の進め方

2) ワークショップに向けた話題提供

（第2期札幌市市民まちづくり活動促進基本計画の概要）

4. ワークショップ

1) 団体の自己紹介

2) 意見交換会

①まちづくり活動の課題

②必要だと思う取組みや支援・制度

③結果発表

5. 挨拶、閉会

2. 開催結果概要

●人材

団体の活動を行う人材が不足している。団体の認知度不足などから新たに募集しても人が集まらず、世代交代や担い手の確保ができていない。

⇒活動に気軽に参加できるきっかけ作りや、企業や学生等へ積極的に参加を呼び掛けていくことが必要

●資金

団体の活動資金が不足している。会員やスポンサーから調達することが難しく、補助金の利用を考えるが情報の不足や条件が合わないことがある。

⇒補助金制度を分かりやすく情報発信することや、条件緩和や手続きの簡便化を図るほか、クラウドファンディングを活用するなど、資金調達しやすい支援・制度が必要

●場所

活動場所を探すにあたり、ニーズ（料金や規模など）に合った場所が不足している。公共施設は低料金で利用できる一方で、予約で埋まっているなど借りられないことが多い。

⇒既存の施設以外に、公共や民間等の空きスペースを間借りで活用するなど、マッチングする仕組みや支援が必要

●交流・連携

他団体等を知る機会や交流する場が不足している。連携を考えるにあたり、お互いの活動状況やルールの把握に時間を要する。

⇒他の団体等と自由に情報交換や交流を行える場や、お互いの状況や要求事項を考慮してマッチングを促進するコーディネータが必要

●情報

団体の活動情報を発信する機会や、人材・ノウハウが不足している。また、活動に関する情報が分散しているため有効な情報を収集することが難しい。

⇒情報発信ツールを活用するためのセミナーやイベントを通じた発信機会を設けることや、情報を集約したポータルサイトが必要

3. 開催結果詳細（主な内容を抜粋）

●人材

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • ボランティア組織で、退会が自由なことから人材が安定しない • 事業を進めていくために、仲間を増やしたい。 • 運営、参加者とも人材確保が困難。 • スタッフの高齢化が進んでいる一方、30～40代は仕事で忙しく活動に参加するのが難しい。 • 活動が認知されておらず、人材を集めにくい。 • 活動の内容によるが、広く公募して集めることが難しい活動もある（一定の知識や経験等が必要）。 など • 活動メンバー（個別の活動、団体の運営）の確保 • 活動メンバーの世代交代 • 活動メンバーのニーズの変化。 • 人間関係の構築（様々な考え方、世代間ギャップをクリア） • 活動意欲の維持 • 少子高齢化で担い手を作る観点などから、ソーシャルワーカー、職能団体の人材育成が必要 • 活動を多岐にわたって広めても、それぞれの活動で取りまとめることができるリーダーがいなく、收拾がつかなくなり長く続かない。 • 活動における人材確保が困難。 • 次世代へ活動を継承できていない。 など 	<ul style="list-style-type: none"> • 組織を維持するため法人化を検討する • スタッフの負担が減る方法を考える • 活動にお試し参加できるイベントを開く・寸劇など、活動に直接関係しないが担い手の興味を引きそうなイベントなどを行い、参加のきっかけを作ると良い。 • ボランティアしたい学生や起業家とのマッチングがあるとよい • 団体に参加することで有意義や楽しいと思ってもらえるように工夫する • 人材の掲示板を設置する、交流会を行うなどのほかに、企業へ呼びかけても良いのではないか。 • やみくもに募集するのではなく、今ある人の繋がりから、新たに人材を探ることが必要（1人が1人を連れてくる仕組みなど）。 • 会社に協力を得てボランティアを募ると良い。 • 色々な集まりに参加し、積極的に声掛けしていくことが必要。 • 団体の状況を踏まえ、若い人に魅力ある組織づくりや企画づくりをコンサルしてほしい。 • 専門的な技術等を提供してもらう際は対価が必要だと思う。 • 同一団体の中に、若い世代と高齢者のグループを作り、グループごとと全体で活動する機会をそれぞれ設ける • 他団体との勉強会や研修会の開催 • リーダーを育成する講座を設け、それを支援する体制も必要 • バックオフィスを請け負う民間サービスを活用する。 • 上記サービスが活用しにくい団体に対し、サポートセンターで支援する仕組みがあるとよい。 など

●資金

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 会費が主な収入源のため、会員の退会により影響が出る • 活動の資金集めは難しく、助成金に頼っている状況が多い。 • 助成金に頼らずに活動できるようにすることが必要ではないか。 • 活動資金が不足している。 • 補助金制度は複雑であったり、条件が厳しい場合が多い。 • 補助金の支払いが事業終了後や年度末であるため、それまでの資金確保が難しい。 • 補助金制度に関する情報を見つけにくい。 • スポンサーを見つけることが課題 • 活動資金を集めること • 助成金に頼っているなど、団体等の自立が困難。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 札幌市で少額単位のクラウドファンディングを創設する • 札幌市で法人化しやすい制度や法人住民税を安くする • 人件費も対象の助成金制度が欲しい。 • 札幌市がまちづくり活動団体の認定制度を設けて、企業とマッチングしやすくなるためのサポートをする • まちづくり団体と企業が連携できると良いのではないか。社会貢献を希望する企業と活動団体のマッチング制度があると良い。 • 補助金制度の条件緩和。 • 国・道・市の補助金制度を一元化し、わかりやすく整理された HP があると良い（NPO が運営すると良い）。 • 活動と関連する企業と会える機会を設ける • クラウドファンディングを活用する（PR にも効果的である）。 • 民間企業にスポンサーになってもらう。 • 助成金など活動資金について、情報などが周知されていないので、周知されるような工夫が必要 • 多岐にわたる助成金の情報をわかりやすく提供する。 • 助成金の活用に制約条件が多いため、柔軟に活用しやすいものとする。 • 参加費をもらうなど、必要な費用をまかなう努力が必要。 <p style="text-align: right;">など</p>

●場所

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 資金がないため事務所を借りることが難しい • 利益がないため集会や打合せを行うような活動場所を借りにくい。 • 活動の場のほかにも、成果発表の場や他の団体の活動を知るための場が不足している。 • 屋外の活動場所が少ない。 • 練習する場所や成果を発表できる場所が少ないなど • エルプラザや教育文化会館など場所の空きがないことが多く借りづらい。 • 場所を使用するのに費用がかかり、捻出できない。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 安く利用できる場所を探す支援があるとよい • 土日に市役所を使わせてもらえると良い。 • レストランやバーなどでも時間貸ししてくれる場所があるので、そのような場所を活用すると良い。 • 他団体の事務所や、企業の空き室等を借りることができる仕組みがほしい • 小規模団体向けのスペース確保に対する支援があるとよい。 • 学校などを開放して欲しい。 • 活動できる公共的な場所を増やす。 • 企業などの空きスペースと借りたい人をマッチングする仕組みが必要。 • 工夫すれば活用できる場所はたくさんある。様々な連携により利用可能。 <p style="text-align: right;">など</p>

●情報

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 団体のことを一般の方や企業にもっと知ってもらいたい • 若年者や高齢者など、世代別に広報の方法を考えなければいけず、その労力が負担である • お互いにどのような活動をしているかわからない状況があるため、団体同士の横の連携が必要。 • 情報提供のためによりわかりやすいツールを作りたいが、ノウハウが足りない。 • ニーズとのマッチングが難しい（活動対象のニーズが掴みにくい） • 行政の考え（計画等）をどの段階で知ることができるかが重要。 • 活動に対して理解してもらえていない（周囲の人、参加者）。 • 情報発信の方法がわからない。 • HP 作成や SNS などに対応できるスタッフがいない • 多くの人の目に触れる情報発信には大きな費用が掛かることが多い。 • 広報さっぽろのリニューアルによりイベント案内が別になったことで活動を知ってもらう機会が減ってしまったと感じる。 • 札幌市の HP は団体や活動に関する情報が探しにくい。団体の区分によって HP に載る団体と載らない団体があるが、市民にとって区分は関係ない。 • 北海道と札幌市の連携が弱く、情報発信が効率的でないと感じる。 • 見てもらうためにはある程度のデザイン性が必要だが、技術をもつ人をお願いする際に無料で依頼することは難しい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 札幌市の団体について PR するツール（番組やポータルサイト）があるとよい • 回覧板や駅の掲示板・中吊り広告を利用する • まちづくりに特化した広報の特集号を作成する • 思い付きや抱えている課題が話せる情報交換の場（本日の WS のような機会）があると良い。 • インスタグラム、ブログなどインターネットを積極的に活用する。 • 広報の重要性を認識するために、絶えず情報発信していくことが必要。 • 情報マッチングサイトなどがあると良い。 • SNS 利用や HP 作成に関するセミナーを開催してはどうか。 • 小規模な団体が集まって PR できるイベントのような機会があると良い。 • 道新の紙面に札幌市がスペースを確保し、多くの団体のイベントを紹介してほしい。人材探しにも効果的だと思う。 • インターネットの検索結果上位に掲載されるための補助制度があると良い。 • マスコミを呼び、活動の必要性や課題を伝えるプレゼンの場があると良い。 • 活動できる公共的な場所を増やす。 • 札幌市市民活動サポートセンターなどを有効に活用できるようにするために、市民に対して多くの情報を整理して提供するなど、提供方法を工夫してはどうか。また、ホームページでイベント検索する時に曜日を指定して検索できるなど、必要な情報のみ表示できるようにしてはどうか。 • 活動できる公共的な場所を増やす。 <p style="text-align: right;">など</p>

●情報

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 市民への各団体の活動の周知 • 市民及び団体いずれにしても情報収集する上で検索場所が分散されていて、どこで、どの情報を得られるのか分からないし、活動する上で有効な情報収集方法が分からない。 • メンバー集めのPR • 市民参加型イベントの告知や他団体の活動内容を知るための情報を周知させる方法が多様化していない。また、なかなか市民の方々の生の声が拾えない。(情報の提供方法) • 団体活動の周知不足で、他団体の活動内容を知る機会が少ない。(情報の提供内容など) • 活動の内容を知ってもらうためのイベントを行う小スペースの場所が少ない。場所の情報が足りない。 • 活動拠点が個人宅の場合、情報を広く公開できない。 • 団体の活動が知られていない。 • 市役所で情報提供してもらえらるといが、なかなか難しい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 札幌市市民活動サポートセンターなどを有効に活用できるようにするために、市民に対して多くの情報を整理して提供するなど、提供方法を工夫してはどうか。また、ホームページでイベント検索する時に曜日を指定して検索できるなど、必要な情報のみ表示できるようにしてはどうか。 • 小学生の頃から取組みやその情報を得るためのツールを知らせたり、学校、町内会、老人クラブなどへの出前講座を行う。 • 市民と団体のホームページを集約して、様々な検索をそこから行えるようにしては、検索したい情報を容易に検索できるようにして欲しい。 • 各施設の文化祭、市民文化祭、芸術祭のような大きなイベントであれば、市民にも団体にも認識されやすく、イベントに関係する多くの団体は活動を知ってもらいたく参加すると思うので、大きなイベントを多く行うことも良いのではないか。 • 様々な団体の活動やイベントを広く知ってもらうために、インターネットの他に広報誌などの紙媒体でも活動情報の提供を充実させるなど工夫をした方が良い。 • 各団体の活動報告をまとめたサイトを設けたり、資料を作成する。また、それらの情報も含め、情報取得の容易さが必要 • 町内会を含め、他団体との交流会を開催するなど、情報共有できる体制づくりが必要 • 大きな会場に小さなブースを設け、イベントを通じて交流できる場所を多く作る。 • 問い合わせなどに専用の通信機を活用し、そのための支援があるとよい。 • サポートセンターをもっと活用する。 <p style="text-align: right;">など</p>

●交流・連携

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 任意団体のため、企業から多くの寄付金を募ることが難しい。 • 連携するための情報が不足している。 • 他団体とコミュニケーションを取るための時間がとりにくい。 • 他の団体と連携したい。 • 他の団体について、現在どのような課題があって、どのような段階にいるのかを知る機会があるとよい。 • 異業種の団体に関する情報や交流機会が不足している。 • 同じ分野で連携しようとする場合、活動におけるルールや基準が異なるために連携が難しい場合がある（交通費の支給など）。 • 他団体とのノウハウ共有の機会が欲しい。 • 他の団体と連携しようと思っても、互いの状況把握に時間を要する。 • 同種団体との組織化。 • 活動するための車、人集め、場所の確保 • どうしても活動範囲が決まっており、その範囲の中の方だけとの交流に偏りがちなってしまう。 • 活動団体間の連携促進 • 地域との交流の場や機会が少ない • 地域の各団体等や行政とNPOの連携が難しい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域貢献したい企業と団体をマッチングする機会が必要である • 思い付きや抱えている課題が話せる情報交換の場（本日のWSのような機会）があると良い。（再掲） • 連携のためのコーディネーターがいると良い。 • 大学等（札幌市立大学や大通高校）に相談してみてもどうか。 • （参加者の取組例）同じ区内で様々な分野の団体との定例会(月1回)を設ける。 • 各団体の活動報告をまとめたサイトを設けたり、資料を作成する。また、それらの情報も含め、情報取得の容易さが必要 • 大きな会場に小さなブースを設け、イベントを通じて交流できる場所を多く作る。 • 他の団体との交流が必要ではないか。他の団体との交流会を市などが会場を提供し、発表会ではなく座談会のような感じで行うことは良いのではないか。今回のワークショップのような集まりは良いと思う。 • 各団体の取組内容や活動環境、互いの要求事項などを考慮して、団体の連携を促進できるような団体マッチングコーディネーターを作る。そうして次第に、出会いが増え各団体の知識や人との交流も増え、コーディネートを通じなくても、マッチング機運が自動的に強化されていくのではないか。 • 誰でも自由に柔軟に利用できる場が必要 • 行政と連携しやすい仕組みが必要 • まちづくりセンターを知ってもらい、活用を促進する • 連携を図ることで、場所や人材など、多くの課題解決につながる。 <p style="text-align: right;">など</p>

●その他

まちづくり活動の主な課題	必要な取組みや支援・制度
<ul style="list-style-type: none"> • 支援活動がボランティアと誤認識されてしまい、学生などがただの労働力として扱われてしまう。 • ボランティアとしてどこまで腹をきめて活動するかとのコンセンサスがとりにくい • 活動の対象としている層がもつ層へのアプローチと多様なニーズへの対応。 • 活動範囲が札幌市外にも広がってきており、対応（料金設定など）が難しい。 • 活動で使いたいと思う札幌市の制度の使い勝手が悪いと感じる。制度が利用できると参加費の抑制できたりや活動の幅が広がる（例：活動で福祉バスを使用したかったが、自分の団体が支援対象としている障がい者が含まれておらず、断念した取組がある）。 • イベント開催にあたり、行政に後援者になってもらえると公共施設にチラシを設置してもらえるので集客が期待できるが、利益が大きく出る取組は行政の後援対象外と言われた。利益が出るかどうかもわからないし、イベントで利益を出して活動資金に回して活動を活発化したいと思うと後援対象外になってしまう。 • 複数法律に関わる内容の対応に苦慮する。 • ボランティア保険に入る人が少ない。 • 増加している高齢者の活動への参加や働く場の創出が必要。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 支援とボランティアが違うことを周知していく必要がある。 • 目先の損得だけでなく、ボランティアを行ったことで生きがいを得られるなどの考え方の醸成が必要。 • ボランティアマネジメントなどの研修があると良い。 • 行政はスピード感を持った取組が必要だと思う。 • テーマ別、分野別に課題に対してプロデュースやコーディネートをする人が必要だと思う。 • 活動により利益が出た場合と出なかった場合を想定した後援の在り方を検討することが必要だと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>

4. 開催の様子

